



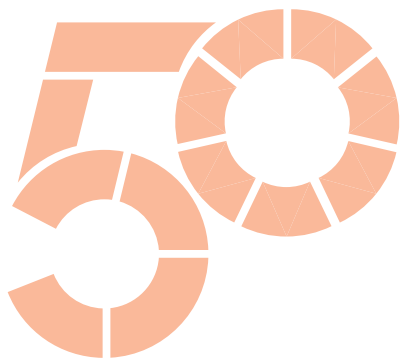
Anniversary

福井県生活協同組合連合会
50周年記念誌



福井県生活協同組合連合会 50周年記念誌

目	01	目次
次	02	会長理事あいさつ
	03	福井県知事祝辞 日本生活協同組合連合会会長祝辞
	04	福井県生活協同組合連合会の概要
	05	近年の主な活動
	06	50年のあゆみ
	08	県連活動
	14	生協間連携の取り組み
	18	会員生協の紹介
	26	生協・協同組合



Anniversary

会長理事あいさつ

創立50周年を迎えて

福井県生活協同組合連合会
会長理事

檜原 弘樹



福井県生活協同組合連合会は、創立50周年を迎えることができました。これまで支えていただきました福井県をはじめとする行政、友誼団体、日本生協連ならびに全国生協の仲間の皆様のご支援、ご指導に感謝申し上げます。そして、これまで半世紀にわたり福井県内で生協の発展にご尽力いただいた会員生協の役職員の皆様に改めて厚くお礼申し上げます。

当連合会は、1975年(昭和50年)に5つの生協により設立されました。当時はオイルショックを背景に公共料金や物価の値上がりで消費者の暮らしを直撃する中で、共同仕入、共同研修、共同行動を開始することと、地域の消費者組織を含めた生協運動への発展を目指して設立されました。1978年(昭和53年)には現在の7つの生協になり、現在に至ります。

この50年間、その時々々の社会情勢の変化のなかで、各生協は手を携えて福井県の組合員(消費者)の生活を守り、より良いくらしの実現のために事業と活動に取り組んできました。

具体的には1980年代の生協規制に対する反対署名運動、1990年代の平和活動や牛乳パックなどの回収リサイクル運動、そして阪神大震災やナホトカ号重油流出事故でのボランティア活動、2000年代の福井豪雨災害や2010年代の東日本大震災への被災地支援活動、そして2020年代新型コロナウイルスや急激な円安による物価高騰での福井県内学生への食料支援やフードバンク活動へと社会課題に取り組んできました。

現在お米を筆頭に物価高騰が消費者の暮らしを直撃し、暮らしを取り巻く状況は厳しくなっています。人口は減少し、高齢化社会は急速に進展しています。さらには多発する自然災害の脅威、社会保障や医療介護、格差社会と貧困等様々な社会課題が増加しています。

2025年は国連が定めた2度目の「国際協同組合年」です。SDGsが目指す「誰一人取り残さない」持続可能な社会と福井県内のより良い暮らしの実現を目指して、引き続き地域社会、全国的生協、会員生協と協力して事業と活動に取り組んでまいります。

今後も変わらぬご支援・ご指導をよろしくお願い致します。

50周年記念誌の
発刊に寄せて福井県知事
杉本 達治

福井県生活協同組合連合会が創立50周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴連合会におかれましては、昭和50年の創立以来、良質な商品の供給、共済事業、医療・福祉事業などの実施により、消費者の生活向上と安全で安心して暮らせる地域づくりに、長年にわたり貢献いただいていることに、深く感謝申し上げますとともに、心より敬意を表します。

さて、近年、食料品をはじめとする物価の高騰や、原料・エネルギー価格の高騰などにより、家計への負担が増し、消費者の暮らしは厳しい状況に直面しております。

また、デジタル化の進展や高齢化の進行など、消費者を取り巻く環境は大きく変化し、消費者トラブルも多様化、複雑化しています。

県では、こうした社会情勢や、新たな課題に的確に対応するため、2024年3月、「福井県消費者基本計画」を策定し、「消費者と事業者が築く 安全安心で豊かなふくいの実現」を基本理念に、各種施策に取り組んでいるところです。

こうした中、貴連合会が、地域に根ざした活動を通じて、組合員の生活を支えるとともに、消費者トラブルの注意喚起やエシカル消費の推進などに、県と連携して取り組んでいただいておりますことは、大変心強く、大きな期待を寄せているところであります。

今後とも、消費者の安全安心で豊かな暮らしのため、より一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴連合会のますますの御発展と、組合員の皆様の御健勝、御多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

福井県生活協同組合連合会の創立50周年にあたり、全国の生協の仲間とともに心よりお祝い申し上げます。創立から、これまで多くの困難の中で歴史を積み重ねてこられた皆様のご活動に対し心より敬意を表します。

貴連合会は、1975年の創立以来、時代環境の変化の中で、会員生協の皆様と共に協同・連帯の基礎を築いてこられました。

会員生協、地域のさまざまな諸団体とのつながりを深め、SDGsの推進や地域防災とボランティア活動の推進など、さまざまな活動を通して安心して暮らせる地域社会づくりを長年にわたり進められてきたことに重ねて敬意を表します。

組合員、消費者のくらしは、食料品、エネルギー価格など価格高騰が続きかつてないほど厳しい状況が続いている中、引き続き私たちは、地域社会の課題のひとつひとつに向き合い、人と人とのつながりを大切に、生協の大きな強みである組合員のもと、SDGsの「誰一人取り残さない」取り組みを、皆様とご一緒に連携し進めていきたいと存じます。

2025年は「国際協同組合年」であり、被爆・戦後80年節目の年です。

くらしの中から平和を考え、語り合う場を大切にするのと、「自信と誇り」をもって協同組合の価値を広げる役割を果たしていくことを大切にしたいと思います。

50周年を迎え、これからも、貴連合会が会員生協、組合員の皆様と共に力を出し合い、よりよい地域の未来に向けてますます力強く発展されますことを祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

創立50周年を
迎えて日本生活協同組合連合会
代表理事会長
新井 ちとせ

創立総会

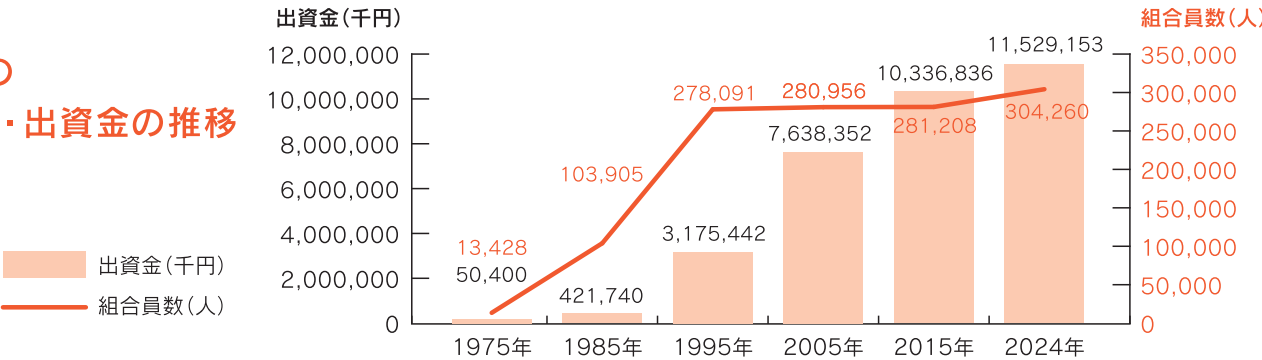
1975年3月29日（法人格取得 1975年10月29日）

会員全体概況

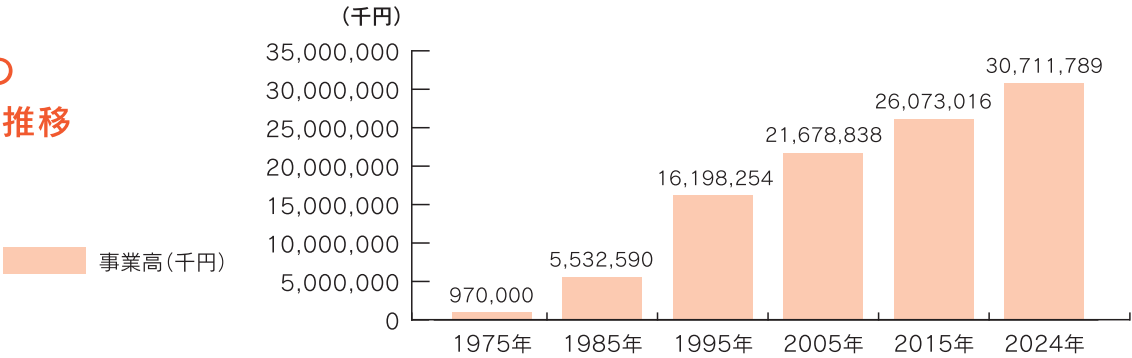
2025年3月31日現在

区 分	会員数	組合員数(人)	備 考
地域生協	2	173,268	福井県民生協・菅浜生協
職域生協	2	11,757	福井県庁生協・福井県学校生協
大学生協	1	5,787	福井大学生協
医療生協	1	21,121	福井県医療生協
共済生協	1	92,327	福井県労済生協(こくみん共済 coop 福井推進本部)
合計	7	304,260	

50年間の
組合員数・出資金の推移



50年間の
事業高の推移



歴代の会長理事

年 度	氏 名	所 属
1975～1977年	池内 啓	福井大学生協
1978～1980年	池田 俊男	福井県庁生協
1981～1982年	野島 敏郎	福井学校生協
1983～1984年	井上 亮	福井県庁生協
1985～1986年	山田 敏	福井県庁生協
1987～1989年	上田 堅	福井学校生協
1990～2000年	宮川 緑夫	福井県民生協
2001～2012年	藤川 武夫	福井県民生協
2013～2020年	竹生 正人	福井県民生協
2021～2024年	松宮 幹雄	福井県民生協

2025年度役員一覧 理事9人・監事2人

役 職	氏 名	所属生協名/役職
会長理事	檜原 弘樹	福井県民生協 理事長
副会長理事	坂 浩	福井県労済生協 専務理事
副会長理事	吉岡 史郎	福井県庁生協 専務理事
専務理事	織田 良	福井県民生協 執行役 統括部長
理事	佐野 誠	福井県医療生協 専務理事
	橋谷 和憲	福井県学校生協 専務理事
	新田 大地	福井大学生協 専務理事
	塩野 孝弘	菅浜生協 理事長
	中川 敦士	福井県民生協 専務理事
監事	北山 順治	福井県学校生協 部長
	梅津 良一	菅浜生協 監事

福井県生活協同組合連合会 近年の主な活動

大規模災害に対する被災地支援、コロナ禍・物価高騰における県内大学生への食料支援、ナホトカ号重油流出事故から続く海岸クリーンアップ活動、切手や外国コインの収集ボランティアなどを通じてSDGsの取り組みを推進しています。



能登半島地震 炊き出しボランティア

2024年1月1日に発生した能登半島地震の被災地での炊き出し支援活動に、4月と6月に取り組み、役職員34人が参加しました。

▶ 詳しくはP10～11をご覧ください



大学生への食料支援

2020年コロナ禍以降、学生の生活は困窮に陥りました。現在も物価高騰に苦しむ福井県内大学生に対して、2021年から年末食料支援に取り組んでいます。2024年度も5大学500人の大学生にレトルトご飯、カップ麺、レトルト食品など8品目をプレゼントしました。

▶ 詳しくはP12をご覧ください



使用済み切手等収集ボランティア

2007年以降、使用済み切手や外国コイン、書き損じハガキなどの収集ボランティアに取り組み、社会福祉協議会に寄付をしています。

▶ 詳しくはP13をご覧ください



海岸クリーンアップ活動

1997年1月ナホトカ号重油流出事故以降、毎年鷹巣と三国海岸で継続して行っている海岸クリーンアップ活動。2025年度は2会場で、約240人の参加がありました。

▶ 詳しくはP8～9をご覧ください



設立前史

- 1958 福井県庁生協設立
- 1959 福井県学校生協設立
- 1961 福井労済生協設立(現こくみん共済coop福井推進本部)
- 1963 福井大学生協設立
- 1971 福井労済生協物資部誕生(現福井県民生協の前身)
- 1972 菅浜生協設立
- 1974 福井県生活協同組合連合会設立準備会発足
- 1975 福井県生活協同組合連合会設立

1990年代

- 1990 第1回生協運動会の開催(5生協、89名)
- 県生協連第1次中期計画を策定
- 県生協連、青年団、被団協の主催で県平和行進



「原爆被爆者援護法の即時制定を求める陳情書」を議会に提出(福井県、4市・18町村で採択)

福井県協同組合連絡協議会の結成
(JA、漁連、森連、生協連5団体)

牛乳パック回収スタート(県庁・県民・大学)

- 1991 北陸6生協による「北陸地区事業連帯推進機構」が設立される

雲仙普賢岳被災者救援募金146万円長崎県生協連へ

- 1992 ICA東京大会プレ文化企画「怒る富士」公演

第30回ICA世界大会東京大会へ参加

北陸事業連帯CO-OP北陸が発足

- 1993 福井県民生協が厚生大臣表彰

- 1994 県会議員との懇談会開催

- 1995 阪神・淡路大震災支援活動開始

災害時における応急物資の協定書を県と締結

福井県生協連20周年記念式典・記念事業

- 1996 自然災害に対する国民的保証制度の署名活動

県内一斉NO2測定活動(140か所)

- 1997 ナホトカ号重油流出事故災害ボランティア活動



第1回海岸クリーンアップ活動のスタート

県連商品学習バスツアー開催(信州りんごなど)

重油災害に対する魚利用キャンペーンを
県民・学校・県庁・大学生協で実施

- 1998 生協ボランティアセンター(SVC)を設立

福井県庁生協が厚生大臣表彰

- 1999 福井県高齢者協同組合「ハイコープ」設立

国際協同組合デー「協同組合研究集会」開催

東海・北陸生協行政合同会議を福井県庁で開催

1970年代

- 1975 石川県生協連と共同でCOOP牛乳開発
(山野乳業)
- 1977 福井県民生協創立(法人格取得は翌年)
- 生協規制反対署名1,000名分を
全国生協大会へ
- 1978 福井県医療生協設立
- 県庁・学校・県民生協の共同仕入開始



1980年代

- 1982 第5回東海北陸地区生協交流会に参加
- 第1回北陸地区共同購入交流会の開催(福井)
- 1983 七尾生協支援開始
- 食品添加物規制緩和、「医療保険をはじめとする
社会保障制度の改悪に反対する」署名運動
- 1984 北陸地区生協協議会設立
- 「はだしのゲン」映画会開催(900名)
- 1985 行政生協合同会議スタート
- 第1回福井県生協大会
- 1986 COOP商品学習会開催
- 生協規制反対全国集会に参加
- 1987 生協会館完成(福井市宝永)
- 1988 消費税反対運動
- 賀川豊彦生誕100年記念
- 映画「死線を越えて」上映会(1,000名)



福井労済生協が厚生大臣表彰

- 1989 福井県消団連と一緒に
「消費税はあくまで反対福井県集会」を開催

2000年代

- 2000** 25周年記念誌およびCD-ROM作成
「食の安全を求める署名活動」16.5万筆集約
「食品の安全を確保するための食品安全行政の充実強化を求める意見書の提出を求める請願」県議会で採択(全国3番目)
- 2001** 県連の「在り方検討会」を開催(財政スリム化)
- 2002** 国際協同組合デーで新聞意見広告の実施
- 2003** 福井大学生協が厚生労働大臣表彰
- 2004** 福井豪雨災害に対して物資支援やボランティア活動を推進
- 2005** 「消費者支援機構関西(KC's)」に参画
県選出国會議員に「消費者団体訴訟制度」の成立に向けた要請書を提出
県連30周年記念「食育シンポジウム」開催
- 2006** 「海岸クリーンアップ活動」へのFパネット(福井県企業等ボランティア・社会貢献連絡会)企業からの参加(9社70名)
- 2007** 改正生協法成立に伴う学習会の開催
生協ボランティア月間を設けて使用済み切手や外国コインなどの収集ボランティア開始
新潟中越沖地震への物資支援(タオル・軍手など)
- 2008** 日生協・関西地連管内府県連との「震災等大規模災害時における応急生活物資等に関する相互支援協定」を締結
福井県学校生協が厚生労働大臣表彰
- 2009** 「新型インフルエンザ」をテーマに役職員学習会の開催
- 2010** 役職員学習会ドキュメンタリー映画「オーシャンズOceans」上映
- 2011** 東日本大震災被災地への物資支援や生協ボランティアバスの運行



「福井豪雨災害募金」の残金を原資に「災害緊急支援基金」を設立



- 2012** 「国際協同組合年」新聞広告の実施や広報
福井県立大学学生への出前講座スタート
- 2013** 役職員学習会「食の安全安心のウソ・ホント」
- 2014** 役職員研修「福島スタディツアー」を開催
- 2015** 役職員学習会映画「体脂肪計タニタの社員食堂」
40周年記念事業「消費者教育フォーラム」開催(講師:前消費者庁長官 阿南 久氏)
- 2016** 役職員学習会「超高齢社会をどう迎えるか」講演会(講師:樋口 恵子氏)
- 2017** 役職員学習会「普通の子が『世界』に羽ばたくJETS物語」講演会(講師:五十嵐 裕子氏)
- 2018** 役員研修「18ふくしまスタディツアー」開催
福井県労働者福祉協議会などと連携し「防災・減災フェア」スタート
- 2019** 役職員学習会「地域における協同組合の役割を広げるために」講演会(講師:JCA 青竹 豊氏)
- 2020** 「新型コロナウイルス」への事業と活動対応
- 2021** 福井県内5大学(600人)の困窮学生への食料支援スタート(協同組合間連携事業)
- 2022** 生協間連携の強化(マイカー共済の推進、ミールキットの販売、困窮者支援)
協同組合間連携の強化(フードドライブ活動実施、クリーンアップ活動)
- 2023** 福井県フードバンク連絡会への加盟
福井県医療生協が厚生労働大臣表彰
- 2024** 能登半島地震への緊急支援募金や炊出し支援
- 2025** 役職員学習会「間違いだらけの防災対策」講演会開催(講師:高荷 智也氏)
「全国大学生協連奨学財団」に賛助会員として参画
福井県生活協同組合連合会50周年事業



役職員学習会映画「体脂肪計タニタの社員食堂」

40周年記念事業「消費者教育フォーラム」開催(講師:前消費者庁長官 阿南 久氏)

役職員学習会「超高齢社会をどう迎えるか」講演会(講師:樋口 恵子氏)



役職員学習会「普通の子が『世界』に羽ばたくJETS物語」講演会(講師:五十嵐 裕子氏)

役員研修「18ふくしまスタディツアー」開催

福井県労働者福祉協議会などと連携し「防災・減災フェア」スタート

役職員学習会「地域における協同組合の役割を広げるために」講演会(講師:JCA 青竹 豊氏)

「新型コロナウイルス」への事業と活動対応

福井県内5大学(600人)の困窮学生への食料支援スタート(協同組合間連携事業)



生協間連携の強化(マイカー共済の推進、ミールキットの販売、困窮者支援)

協同組合間連携の強化(フードドライブ活動実施、クリーンアップ活動)

福井県フードバンク連絡会への加盟

福井県医療生協が厚生労働大臣表彰

能登半島地震への緊急支援募金や炊出し支援



役職員学習会「間違いだらけの防災対策」講演会開催(講師:高荷 智也氏)

「全国大学生協連奨学財団」に賛助会員として参画
福井県生活協同組合連合会50周年事業

海岸クリーンアップ活動

1997年ナホトカ号重油流出事故から始まった、私たち生協の地域への想い



1997年1月2日、日本海を航行中のロシア船籍タンカー「ナホトカ号」が、悪天候の中、隠岐諸島沖で座礁・分断し、大量の重油が流出するという痛ましい事故が発生しました。この事故は、福井県の海岸にも甚大な被害をもたらし、美しい海と自然、そして人々の生活に大きな影を落しました。

事故発生直後から始まった、懸命な復旧作業と支援の輪

事故の知らせを受け、福井県生協連合会は、被災地の状況を憂慮し、福井県社会福祉協議会や地域のボランティア団体と一緒にすぐに物資提供や回収ボランティアなどの支援活動を開始しました。組合員や職員が中心となり、重油回収ボランティアを組織し、漂着した重油の除去作業に奔走しました。また回収ボランティアを支援するための炊き出しなどを行いました。冷たい風が吹き付ける中、手作業で油を拭き取り、砂浜をきれいにする地道な作業は、困難を極めました。が、「何とか故郷の海を守りたい」という強い想いが、多くの人々の背中を押しました。

また、被災された方々への経済的な支援として、募金活動も積極的に展開しました。組合員をはじめ、地域の方々からの温かい善意が寄せられ、被災地の復興にわずかながらも貢献することができました。

生協ボランティアセンターの設立、そして「海岸クリーンアップ活動」へ

ナホトカ号の事故を経験した私たちは、「二度とこのような悲しい出来事を繰り返してはならない」「美しい福井の海を未来へつなごう」という強い思いを抱きました。その決意の表れとして、1998年には生協ボランティアセンターを設立し、地域に根ざしたボランティア活動を推進する体制を整えました。

そして、このセンターの活動の柱の一つとして始まったのが、毎年恒例の海岸クリーンアップ活動です。福井県内でも特に景勝地として知られる三国サンセットビーチと福井市鷹巣海岸を主な活動場所とし、毎年秋、組合員や生協の役職員、さらに高校生や地元の少年野球チーム、地元企業のボランティアなど毎回2会場で200人を超える多くの方々にご参加いただいています。



▲海岸クリーンアップの活動風景

海を守り、地域を愛する心を育む

海岸クリーンアップ活動では、漂着したゴミの回収はもちろんのこと、参加者同士の交流や、海の環境問題についての学習会なども行ってきました。単に海岸をきれいにするだけでなく、参加者一人ひとりの環境意識を高め、地域を愛する心を育むことも、この活動の重要な目的です。

長年にわたる活動を通して、海岸線は目に見えて美しくなり、多くの生き物たちが戻ってくる姿も見られるようになりました。しかし、依然として漂着ゴミの問題は後を絶ちません。

未来へつなぐ、私たちの誓い

ナホトカ号重油流出事故から四半世紀以上が経過しましたが、あの日の教訓と、美しい海を守りたいという私たちの想いは、決して色褪せることはありません。これからも福井県生協連合会は、地域の方々と手を取り合いながら、持続可能な社会の実現に向けて、海岸クリーンアップ活動に取り組んでまいります。

50周年を迎える今、改めて原点に立ち返り、これからも地域社会の一員として、皆様と共に歩んでいくことを誓います。



▲毎年参加している少年野球チームの子ども達

自然災害のたびに、私たちは地域と共にありました



▲2004年 福井豪雨での生協ボランティア活動



▲2024年 能登半島地震での被災地支援参加

福井県生協連合会は、地域社会の一員として、いついかなる時も皆様と共に歩んでまいりました。近年、日本各地で頻発する自然災害においても、被災された方々のために、できる限りの支援活動に取り組んでまいりました。

2004年 福井豪雨:復興への道のりを共に歩む

2004年7月、福井県を襲った記録的な豪雨は、甚大な被害をもたらしました。河川の氾濫により家屋が浸水し、ライフラインが寸断されるなど、被災エリアの県民の生活は一変しました。

この未曾有の災害に対し、福井県生協連合会は各生協と連携して、発生直後から被災者支援に乗り出しました。救援物資の提供をはじめ、県内生協や日生協関西地連・関西管内生協職員のボランティアバス運行を行い福井市一乗谷での清掃ボランティアなど、組合員や職員が一丸となって支援活動を展開しました。現地ボランティアセンターのニーズを受け、泥水に浸かった家屋の清掃や、生活物資の運搬など、被災された方々の不安な心に寄り添いました。

また、長期的な支援として、復興支援のための募金活動を実施し、集まった善意を被災地の復興に役立てていただきました。この経験を通して、私たちは、災害時における地域社会の連携と、継続的な支援の重要性を改めて認識しました。



▲福井豪雨ボランティア(一乗谷)

2011年 東日本大震災:遠く離れていても、心をつなぐ

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方を中心に壊滅的な被害をもたらしました。多くの方々がこの未曾有の事態に心を痛めました。

福井県生協連合会と各生協では、被災地の状況を案じ、すぐに義援金と支援物資募集を開始しました。組合員や地域住民の皆様からの温かいご支援は、被災地の復興支援に繋がりました。また、長期にわたる避難生活を送られている方々への物資支援や、福井県内への避難者の方々への生活支援など、息の長い支援活動を展開しました。

遠く離れた地で起こった災害でしたが、「共に生きる」という生協の理念に基づき、被災された方々の一日も早い復興を願い、継続的な支援を続けてまいりました。福井県が支援する岩手県陸前高田市に、福井県生協連合会としてボランティアバスを運行し、チームふくいと一緒にがれき撤去などの清掃ボランティアに参加してきました。同時に、福島県や宮城県への役職員によるスタディツアーを実施し、復旧や復興の状況を視察するとともに、万一の大地震に備えた防災・減災の重要性を共有し、その後福井県内での福井県労働者福祉協議会やこくみん共済coopとの「防災・減災フェア」の実施につなげていきました。



▲東日本大震災物資輸送



▲福島スタディツアー

2024年 能登半島地震:記憶を繋ぎ、今できることを

記憶に新しい2024年1月1日に発生した能登半島地震は、石川県を中心に甚大な被害をもたらしました。隣県である福井県も大きな揺れに見舞われ、県内でも被害が発生しましたが、能登地方の壊滅的な状況に、私たちは強い衝撃を受けました。

福井県生協連合会と各生協では、地震発生直後から義援金募集や被災地生協であるコープいしかわへの支援を開始しました。また、被災地のニーズに応じた支援を行うため、福井県からの要請を受け緊急支援物資の提供や、被災地への医療従事者や介護士の派遣、また炊き出しボランティアや弁当の宅配などを行いました。過去の災害支援の経験を活かし、関係機関との連携を継続しながら活動を続けています。



▲能登半島地震被災への弁当お届け



▲能登半島地震被災地での炊き出し

生協の想い: 困難な時こそ、共に支え合う

私たちは、自然災害はいつ、どこで起こるかかわからないという現実を改めて認識しました。そして、そのような困難な時こそ、地域社会の一員として、共に支え合い、助け合うことの重要性を強く感じています。

過去の災害支援活動を通して得た経験と教訓を活かし、今後も自然災害発生時には、迅速かつ適切な支援活動を行ってまいります。被災された方々の生活再建と、地域の復興のために、私たちはこれからも歩み続けます。

50周年を迎える今、改めて、自然の脅威と、それに向き合う人々の強さ、そして支え合うことの大切さを心に刻み、これからも地域の皆様と共に、未来を築いていくことを誓います。

福井県生協連合会による学生食料支援の軌跡

困難な時代に、未来へのエールを



2020年、世界を覆った未曾有の新型コロナウイルス感染症は、私たちの社会に大きな変化をもたらしました。それは、勉学に励む学生たちの日常にも深く影を落とし、経済的な困窮や孤立といった、これまで想像もしなかった困難が彼らを襲いました。福井県生協連合会では県内の協同組合と連携し、この危機に際し、「誰一人取り残さない」というSDGsの理念のもと、県内の学生たちが安心して学び続けられるよう、2021年より年末食料支援活動を開始しました。

学生の「食」を支える、温かい輪

活動の中心となったのは、県内JA・漁連など協同組合との連携です。各大学のニーズをヒアリングし、レトルト食品や米、カップ麺などを詰め合わせた「応援セット」を無償で提供しました。特に2021～2023年にはJA系の福井パルライスからお米3kgを500～600袋無償提供いただき、県内5大学（福井大学・福井県立大学・福井工業大学・仁愛大学・仁愛女子短期大学）の学生600人に提供しました。単に食料を届けるだけでなく、メッセージを添えたチラシを配り、孤立しがちな学生に「つながり」を感じてもらうことを目指しました。



▲2021年 学生への応援セット

広がる支援の輪、深まる連携

当初はコロナ禍で始まった支援活動ですが、福井県生協連合会が中心となり、現在は物価高騰に対応するため、継続して行っています。支援を受けた学生からは、「本当に助かった」「温かい気持ちが嬉しかった」といった感謝の声が多数寄せられました。これらの声は、私たちの活動の大きな励みとなり、「未来を担う若者を支えたい」という思いを共有しました。



▲福井大学贈呈式

50年の歩みの中で培われた、助け合いの精神

福井県生協連合会は、設立から50年、地域社会の発展とともに歩んでまいりました。この間の経験の中で培われたのは、「困ったときはお互いさま」という助け合いの精神です。

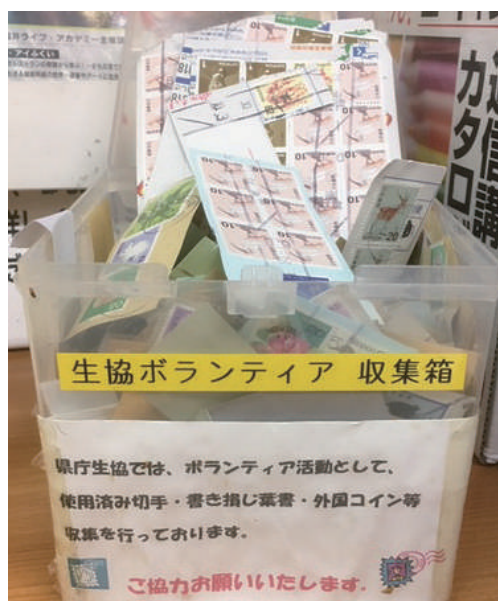
コロナ禍、物価高騰における学生支援活動は、この精神を改めて体現するものであり、私たち生協にとって、かけがえのない経験となりました。

これからも、福井県生協連合会は、地域社会の一員として、時代の変化に対応しながら、人々の暮らしを支える活動を続けてまいります。未来を担う学生たちが、安心して学び、成長できる社会の実現に向けて、これからも共に歩んでまいります。



Anniversary

誰かの「ありがとう」につながる 収集ボランティア活動



福井県生協連合会では、2007年より、使用済み切手や書き損じはがき、外国コイン、ベルマークなどを集めて寄付するボランティア活動を行っています。これらの回収品は、専門の団体を通じて換金され、様々な形で社会貢献に役立てられています。

このような形で活用されます

- 教育支援：学校の教育設備を充実させるための資金として活用されます。
- 福祉支援：海外の医療支援や災害復興支援の他、国内の多岐にわたる社会福祉活動に役立てられます。

身近で参加しやすい社会貢献として、通年で収集を呼びかけていますが、毎年11月15日～2月15日を『収集ボランティア月間』として周知を強化し、参加を推進しています。会員生協の事業所の他、広く地域の方々から収集物の提供があり、2024年5月には、使用済み切手等15,050g、ベルマーク2,638g、書き損じはがき842g、外国コイン1,384gを福井県社会福祉協議会に寄付することができました。

小さな善意が集まり大きな力になる、この取り組みを今後もたくさんの人に知ってもらい、誰かの笑顔と「ありがとう」につながる活動として、長く続けていきたいと考えています。

福井県県民安全課との懇談会

毎年8月に、福井県県民安全課と懇談会を開催しています。福井県の消費生活事業や消費者教育の現状と目的について理解を深め、県内生協の多岐にわたる活動を報告し、情報を共有する大切な機会となっています。

生協と行政がお互いの活動や課題を「シェアして交流する」ことで、福井県の安全で安心な消費生活を守るための具体的な連携や、より効果的な消費者教育のあり方を探っています。

消費者を取り巻く環境は日々変化しており、複雑化する消費トラブルへの対応や、若年層への消費者教育の推進など、多岐にわたる課題が存在します。地域に根ざした活動を通じて消費者の声に日々耳を傾けている生協は、専門的な視点から課題解決に取り組んでいる行政と連携し、より安心して豊かな消費生活の実現に向けて努力して参ります。



より良い 消費者行政のために



Anniversary

災害の教訓を未来へつなぐ 防災・減災への継続的な取り組み



▲防災・減災フェア2025 Dr.ナダレンジャーの防災科学実験ショー



東日本大震災をはじめとする大規模災害の経験は、私たちの生活と安全に対する意識を大きく変えました。こくみん共済coop福井推進本部と福井県民生協は、この経験を深く胸に刻み、県民の安全・安心な暮らしを守るため、福井県労働者福祉協議会との連携のもと、「家族でたのしくまなぶ 防災・減災フェア」を2018年度から継続して取り組んでいます。

このフェアでは、地震発生時の共済の重要性を伝えるこくみん共済coopによる災害時の保障や生活再建に向けた情報を提供しています。また、福井県民生協による日頃の備えとして「ローリングストック」による食品備蓄の啓発などに取り組んでいます。組合員が災害時にも安心して生活を送れるよう、これらの情報を分かりやすく発信し、自助・共助の意識を高める活動に力を入れています。

近年では、フェアの内容も進化し、防災グッズの作成や展示、地震体験コーナー、専門家による講演会などを通じて、より実践的な知識や技術を習得できる機会を提供しています。また、災害発生時における自治体や関係機関との協力体制づくりにもつなげています。



▲ローリングストック展示



▲子ども向け防災ヒーロー入団試験



▲地震ザブトン

福井県生協連合会ではこれら各生協の活動を支援し、今後も「防災・減災フェア」をはじめとする様々な活動を通じて、組合員一人ひとりの防災意識向上と、地域社会全体の防災力強化に貢献してまいります。過去の教訓を活かし、未来の世代へと安全な暮らしをつなぐために、私たちはこれからも歩み続けます。

生協が手を携えて 学生のくらしを応援



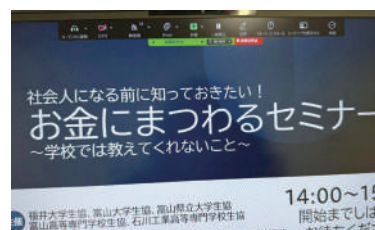
学生へのくらしの応援をさらに高めようと、2025年福井大学生協が実施する新入生向けのガイダンスの場「新入生サポートセンター」に、福井県民生協が初めてブース出展し、食を通じた学生のくらしのサポートについて、チラシやコープ商品のサンプルを配布しました。また過去福井大学生協の食堂の店長が考案した「地酒酒かすプリン」を福井県民生協の店舗ハーツで販売したり、福井県民生協のミールキット商品(食材セット)を福井大学生協で取り扱った実績もあり、今後も福井県民生協の宅配や店舗で扱っている生鮮品を、福井大学生協の食堂で取り扱うなどの連携を、模索しています。

卒業後も継続したサポートを

福井大学生協では学生同士の助け合いの制度として「学生総合共済」(引受団体はコープ共済連)の取り扱いをしていますが、「学生総合共済」加入者の卒業時の新社会人コースへの継続が課題となっています。現在学生時での新社会人コースの事前申し込みが可能となっており、「学生総合共済」の良さを感じてもらい取り組みを強めると同時に、新社会人コースへの継続の取り組みを、連携して進めています。

学生向けの学習会

2022年4月1日から成人年齢が20歳から18歳に引き下げられ、親の同意なしに様々な契約(携帯電話契約、ローン契約、賃貸契約など)ができるようになりました。一方で悪徳業者による勧誘や高額な契約によるトラブルに巻き込まれる可能性も増えてきました。2024年から福井大学の学生向けに「お金のセミナー」として、福井県民生協のLPA(ライフプランアドバイザー)の会の組合員が講師となり、契約上での注意やこれから社会に出る上で金融に関する学習会を連携して開催してきました。



▲学生向けライフプランセミナー

地域の生活を支える助け合い 生活困窮者への食料無料支援の取り組み



▲食料無料支援



相談会

福井県医療生協では物価高騰が続くなか、地域の生活を支える「助け合い」の取り組みを実践し、食料無料支援を継続開催、その際に「なんでも相談会」も開催してきました（コロナ禍の2020年開始、2024年度は年4回開催）。また、組合員有志が組合員ルームで2022年に始めた「移動子ども食堂くるくるごはん804」は毎月開催され、時には各地の公民館でも出張開催しています。

店舗でのフードドライブ実施

福井県民生協では店舗ハーツを拠点に「フードドライブ」の取り組みを実施し、店舗「ハーツ学園」に寄付されたフードドライブ食料品については、福井県医療生協に提供することで、「食料無料支援」に活用していただくなど連携を図ってきました。2025年4月からは、店内にフードドライブポストを常設し、支援の取り組みをさらに強化しています。



▲ハーツ学園の常設フードドライブポスト



▲ハーツ学園のフードドライブ商品を福井県医療生協にお渡し

協同の力で地域を盛り上げる 菅浜生協まつりの取り組み



菅浜生協は、120世帯の集落が一つの生協になっている、全国的にも珍しい存在で、日本で一番小さい生協とされています。大正14年（1925年）当時125戸あった民家のうち105戸が焼けるという大火から今年で100年。集落全体で生活を支え合うという復興の過程で生協が設立された、協同の精神が強いエリアです。菅浜地区では、菅浜生協の店舗を会場に、協同の力で毎年11月菅浜生協まつりを実施しています。菅浜生協まつりには、福井県医療生協と福井県民生協も参加して盛り上げています。

健康サポート

福井県医療生協 嶺南ブロックでは、健康チェックや健康相談を行い、菅浜地区の住民の健康サポートに取り組みました。



▲健康相談活動



▲健康チェック

ハーツつるが販売ブース

福井県民生協 第3地区本部（嶺南地区）では、ハーツつるががタマゴや野菜・果物、お惣菜などの販売ブースを設けて、菅浜生協まつりを盛り上げています。



▲販売ブース

福井県庁生活協同組合

「職員の福利厚生の一翼を担って」



設立からの歩み

設立年月日: 1958年10月7日(設立総会) 組合員数: 1,031人 出資金: 32万1,400円

県庁職員が出資金を出し合って組合を作り、生活必需物資、家庭用品の共同購入、食堂・理髪所の経営、その他生活の文化的向上を図るための事業を行い、事業を通じて職員の経済的な利益をもたらすようにしたい。(設立趣意書より)

【主な歩み】

- 1958年 6月1日 設立発起人会
- 1958年11月1日 創業(売店、食堂、理髪所)
- 1968年10月 創業10周年記念大会(県民会館)
- 1978年 9月 月見仮庁舎への移転営業(1981年10月19日新庁舎へ移転)
- 1988年～1989年 30周年記念行事(文化講演会、県民ふれあいデー、記念式典)
- 1997年 3月 本庁店舗リニューアルオープン「U-shop」
- 2007年 9月 創立50周年記念式典・レセプション開催
- 2023年12月 新組合員管理システムの導入

現在の概要

福井県庁生活協同組合	組合員数	3,724人
理事長 土田 利幸	出資金	20,521千円
設立年月日 1958年10月7日	総事業高	128,128千円

【主な事業内容】

- 供給事業(店舗供給、共同購入、あっせん供給)
- 手数料事業(切手印紙、ガソリン、保険、商品券、自販機など)
- 食堂事業(県庁食堂)

【使用施設】

- 事務局本部 ●本庁店舗 ●福井合庁店舗 ●南越合庁店舗
- 奥越合庁店舗 ●若狭合庁店舗 ●工業技術センター店舗
- 県庁食堂(事業者委託)



▲ファミリーフェスタの風景

事業内容の特色

組合員相互の助け合いを目的とした「グループ保険」や、組合員の住まいの相談に応えるハウジング事業に注力するほか、自転車ヘルメット着用推進など県の施策に積極的に協力しています。

SDGsへの貢献

エシカル消費の普及推進を図るため、農家による野菜・果物の販売や地元の商店や事業者などを指定店・協力店として登録し、地域の商品・サービスを応援しています。

能登被災地復興応援フェアの開催やCO・OP×レッドカップキャンペーンなどにも参加しています。

母体である福井県や職員組合と連携して、組合員の生活の維持・向上を図り、県職員の福利厚生の一翼を担うという大きな使命のもと、新しい事業分野に積極的にチャレンジしていきます。

所在地 福井市大手3-17-1
電話番号 0776-23-1021
<https://www.pref-fukui-coop.or.jp/>



Anniversary

福井県学校生活協同組合

「ひとりは万人の為に 万人はひとりの為に」

設立からの歩み

設立年月日: 1959年6月10日

教職員の平和と豊かな暮らしを守り、福利厚生事業を行いやりがいのある教育活動をサポートすることを目的に設立される

【主な歩み】

- 1979年 創立20周年記念式典・記念大感謝祭実施
- 1989年 配送センター完成
- 2009年 創立50周年
- 2013年 太陽光発電システム設置
- 2022年 マイページ・デジタル組合員証導入

現在の概要

福井県学校生活協同組合	組 合 員 数	8,033人
理 事 長 竹澤 宏保	出 資 金	166,228千円
設立年月日 1959年6月10日	総 事 業 高	129,962千円



▲福井県しあわせ基金へ

【主な事業内容】

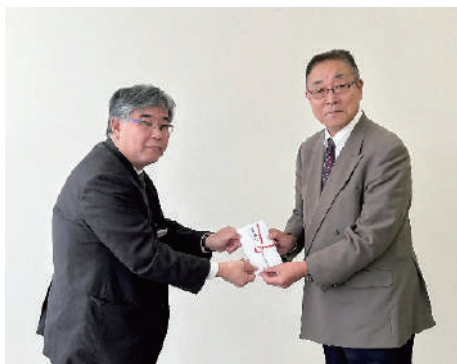
- 共同購入 ●手数料業務(指定店、提携店など) ●ガソリン事業 ●保険業務(生命保険、損保保険)

【理念】「教職員に寄り添う学生協」

事業内容の特色

学生協の事業の根幹である「共同購入」を中心に事業を行っています。その中でも「一人一品利用運動」「支援企画」には、多くの組合員の利用があり、購入率の底上げになっています。特に「支援企画」は、東日本大震災・能登震災の被災地に義援金・支援金の送金や、福井県しあわせ基金・福井県児童福祉事業基金へ寄付を行い、支援活動を行っています。

また、年に一度学生協感謝祭を開催し、毎年多くの組合員・家族が訪れ、楽しい一日を過ごしていただいています。



▲能登支援(石川県学生協へ)



▲組合員感謝祭の様子(ビンゴゲーム)

これからの未来も、その時代にあった事業、組合員のニーズに応じた事業を行い、組合員から親しまれる学生協にしていきます。

所在地 福井市大手2-22-28
電話番号 0776-23-1889

<https://www.fgcoop.or.jp/>



福井県労働者共済生活協同組合 「みんなでたすけあい、 豊かで安心できる社会づくり」

こくみん共済〈全労済〉
coop



設立からの歩み

1957年1月に勤労者共済を創立し火災共済を開始しました。1960年2月労働者共済(労済)と名称変更し1961年11月に待望の認可を取得しました。その後1982年に全労済(こくみん共済coop)に統合しました。

一方災害の歴史では、1965年の「三大風水害」、1981年の「56豪雪」、2004年の「福井豪雨」、2022年の「令和4年豪雨」、2024年の「能登半島地震」などの大規模災害や、いくつもの困難を乗り越え、生活者の日常生活を守ることを目的に広く深く共済の輪を広げていく活動を展開しています。

現在の概要

福井県労働者共済生活協同組合	組 合 員 数	92,327人
理 事 長 矢野 義和	出 資 金	576,893千円
設立年月日 1961年11月13日	総 事 業 高	36,302千円

【主な事業内容】

●共済事業



いつも笑顔で「あんしんのタネ」を
はこぶ優しい妖精ビットくん
(福井県ご当地バージョン)

事業内容の特色

「一人は万人のために、万人は一人のために」という考えのもと、共済事業を通じて「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」に取り組んでいます。

地域との連携

豊かで安心できる社会が形成され継続するために、「防災・減災活動」「環境保全活動」「子どもの健全育成活動」を重点分野と位置づけ、積極的に地域社会に貢献する活動を展開しています。

- 「みんなで被災地応援プロジェクト」：住まいる共済の見積数に応じて被災地へ寄附を行う取り組み
- 「7才の交通安全プロジェクト」：子どもたちを交通事故から守っていく取り組み
(マイカー共済の見積数に応じた横断旗を小学校や児童館などへ寄贈)
- 「こどもの成長応援プロジェクト」：子どもの健全育成を目的とした取り組み
(こくみん共済「こども保障タイプ」の加入件数に応じたなわとび・長なわを児童館などへ寄贈)
- 「地域貢献助成」：「防災・減災活動」「環境保全活動」「子どもの健全育成活動」を重点分野と位置づけ、毎年地域貢献助成を実施

SDGsへの貢献

「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」という理念のもと、持続可能な社会づくりに貢献するため、2020年に「こくみん共済 coop SDGs行動宣言」を取り決め、「①共済を通じた安心の提供」「②環境保全の取り組み」「③子どもの健全育成の取り組み」「④防災・減災の取り組み」「⑤共創による社会づくり」「⑥魅力ある組織づくり」という6つの重要課題を設定し、さまざまな社会活動に取り組んでいます。

アプリ・マイページやセット共済WEBシステムなどのデジタル技術の機能拡充をはかり、組合員に「寄り添い」「向き合った」トータルな保障提案をおこない、CX-Challengeの実行によるCX・EXの創造を進め、新しいたすけあいを創造・実践していきます。

所在地 福井市日之出1-10-1

電話番号 0776-26-6108

<https://www.zenrosai.coop/contact/zenkoku/fukui.html>



福井大学生生活協同組合

「福井大生の学ぶ・食べる・遊ぶ・健康をサポートし、組合員と組合員のつながりを育む」

設立からの歩み

1962年に食堂・食品部・学生集会室で供給を開始し、1963年4月1日設立発起人(学生・教員・職員による有志)より、設立趣意書が提出され、創立されました。設立趣意書には、戦後の不安定な情勢の中で、学業・職務に専念できていないこと、学生及び教職員が一致団結して経済的・文化的・生活の向上と学問研究の発展をめざし、生活協同組合の設立を望むことが書かれています。

設立後は、購買部から始まり、書籍コーナーの設置、食堂の完成を経て、1983年から学生総合共済を開始しています。以降、旅行業や共同購入、住まい紹介業務の取り扱いなど、福井大生の「学ぶ・食べる・遊ぶ・健康」を60年以上に渡ってサポートし続けてきました。

2020年からのコロナ禍、そしてアフターコロナでは、大学生の暮らしと学びが大きく変容していく中で事業活動は大きな影響を受けました。現在は、改めて、「組合員をど真ん中に」据えて、組合員へ寄り添いながら、より良い暮らしと学びをめざして事業と活動に取り組んでいます。

現在の概要

福井大学生生活協同組合	組 合 員 数	5,787人
理 事 長 井上 博行	出 資 金	105,832千円
設立年月日 1963年5月1日	総 事 業 高	629,786千円

【主な事業内容】

●共済 ●購買 ●書籍 ●食堂 ●旅行・サービス ●SG(検定・資格・講座) ●住まい紹介

事業内容の特色

組合員のうち、およそ85%は18歳～22歳の学生組合員です。各事業は、学生のキャンパスライフを支えることを主な目的としています。

食堂や購買の食品部門では、単に人気のあるメニューを提供するだけでなく、安全・安心な食を提供し、組合員の健康を考えて事業を行っています。パソコンや共済は、購入して終わり、加入して終わりではなく、その後のキャンパスライフが豊かになるような活動(パソコンを使って学びを深めるための講座や、ケガや病気を予防する啓発活動など)を行っています。教科書販売では、学生の学びを支える根幹になるため、組合員還元として教科書購入代金の10%を還元しています。教科書を含めた年間の還元金額(供給値引)は、毎年1,000万円以上です。

そのほか、大学を通じた「生協奨学金」の実施、オリジナル公務員講座の開催、大学と協力した合同企業研究会、校費などでの研究機器・書籍購入の支援などを行っています。

組合員の活動

学生委員会として、SoSen部(組織宣伝部)があります。SoSen部には約100人の学生が所属しており、SoSen部を中心とした組合員活動は大学内で果たす役割も大きく、評価されています。オープンキャンパスでは来場された高校生・保護者へのキャンパスツアーを実施、受験から入学の時期には新入生サポートセンターを開設し、住まい紹介から生協加入、教材の準備、ミールバスを利用した健康的な食生活の提案などを行い、新入生・保護者の不安を解消し、入学準備を支える取り組みを行っています。

日常的な活動としても、読書マラソンの推進や食堂・購買の利用・参加促進、平和・環境・社会を考える取り組みなどを進めており、生協の事業と活動を通して、豊かなキャンパスライフの実現をめざしています。



▲SoSen部の活動の様子

大学生協のビジョン「協同」「協力」「自立」「参加」を大切に、地域と大学に根差した事業と活動を進め、わくわくするキャンパスをつくり、元気な福井大生を社会に送り出すことをめざします。

所在地 福井市文京3-9-1

電話番号 0776-21-2956

<https://www.fu-coop.or.jp/index.html>



菅浜生活協同組合

「集落が作った小さな生協」 「組合員による組合員のための生協」



設立からの歩み

菅浜生協は、1925年5月31日の大火後、戦前に共同販売所として開設しました。その後、1972年に、集落全戸が共同出資し、菅浜生協が設立されました。当時は高度経済成長期で、中京京阪神からの宿泊海水浴客にあふれ、一般家庭も民宿に便乗し、菅浜生協の最盛期でした。1994年、共同販売所のあった道路反対側の埋立地に、新店舗として移転しました。その頃は北陸自動車道も全線開通しており、海水浴客は日帰りとなりましたが、民宿は原子力発電所の作業員の宿泊施設となって、売上は減少しつつも経営を続けてこれました。菅浜生協について、当時京都大学大学院農学研究科博士課程後期の岩橋涼さんが「集落が作った小さな生協－菅浜生活協同組合」(くらしと協同の研究所『くらしと協同』2016春号(第16号))に紹介されています。

現在の概要

菅浜生活協同組合	組 合 員 数	120人
理 事 長 塩野 孝弘	出 資 金	4,740千円
設立年月日 1972年3月29日	総 事 業 高	101,975千円

最近の組合員の買物環境は大きく変化しています。近隣にスーパー、ドラッグストアなど大型店舗が進出して、商品の品ぞろえでは太刀打ちできない状況です。また、一人一台のマイカー所有により、敦賀市への買物が多くなっています。半面、交通手段のない高齢の方は、毎日の食材の購入のために生協へ通っていただいているという状況です。加えて、菅浜地区のみならず、敦賀半島西岸地区3集落の高齢者にとっても重要な商品提供の場になっており、利用範囲は大きくなっています。

原子力発電所関連では、定期検査期間の短縮や廃炉があり、作業員の宿泊は殆どなくなりました。現在は、町学校保育所、企業などの食材配達を中心に経営を継続していますが、限界を感じています。生協の経営を継続するかどうか、高齢者の皆さんのよりどころとして存続していくべきか、今、経営判断が迫られています。

事業内容の特色

通常ベースの地元組合員への店舗販売、町施設、企業への食材配達に加え、特色ある事業として、半夏生の焼きサバ、秋の生協祭りがあります。半夏生の焼きサバは、理事が冷凍サバを仕入れ、解体し焼きサバにして、注文販売しています。秋の生協祭りでは、カニなどの鮮魚、焼きサバ、手打ちそば、おはぎ、かやくめし、ラーメンなど、組合員がそれぞれ得意な料理で、来場者へ日々の生協利用に感謝する気持ちで販売しています。

生協の活性化と愛着心の醸成を目的に、2021年の生協祭りの際に、シンボルマーク「キラリくん」を披露しました。皆さんに親しみを持っていただいています。

地域との連携

美浜町の地場産業育成の方針もあり、学校、保育所、福祉施設へ食材の配達注文をいただいています。また、原子力発電所の寮などへも食材配達があり、電力会社の地域共生の方針が、経営の支えとなっています。組合員からは、「炭焼きの会」の活動を通じて、製造した木炭を生協へ提供していただいています。冬の降雪時には、店舗前の組合員さんがキャラクターの雪像を作ってください、生協の強力な宣伝役となっています。



▲店舗でお迎える雪像たち

菅浜生協が発足して53年経過し、現在に至っています。その時々生協運営に携わった諸先輩理事監事職員の皆様に感謝を申し上げるとともに、地域のコミュニティの場として益々発展させていきます。

所 在 地 三方郡美浜町菅浜100-14
電 話 番 号 0770-38-1700

「地域の健康づくり、まちづくり。みんなで歩いてきた47年」

設立からの歩み

福井県医療生活協同組合は1975年、地域の方々から「誰もが安心して利用できる民主的な病院や診療所をつくろう」との声があがり、「福井県に民主診療所をつくる会」が発足、1978年福井市光陽地区に「光陽診療所」が竣工、同年5月12日に「福井県医療生活協同組合」が発足しました。光陽診療所の運営から始まり、これまで地域の医療と福祉を守り広げる活動とあわせて地域の健康づくりを進め、2025年現在では病院や診療所、介護事業所など19の医療福祉事業所を運営しています。



▲創立の総会



▲光陽診療所



▲現在の光陽生協病院

現在の概要

福井県医療生活協同組合	組 合 員 数	21,121人
理 事 長 天津 亨	出 資 金	551,271千円
設立年月日 1978年5月12日	総 事 業 高	2,141,115千円

【主な事業内容】福井市・坂井市・越前市・敦賀市地区にて運営

- 病院: 1
- 診療所: 2
- 歯科診療所: 3
- ホームヘルプステーション: 2
- 通所リハビリテーション: 1
- 通所介護: 1
- グループホーム: 1
- 住宅型有料老人ホーム: 2
- 居宅介護支援事業所: 2
- 訪問看護ステーション: 2
- 認知症対応型通所介護: 1
- 地域包括支援センター: 1

地域との連携

福井県医療生活協同組合は地域の組合員21,121人の協同のもと、医療福祉事業と連携して「誰もが安心して暮らせるまちづくり」を掲げこの間、地域の健康づくり、まちづくり活動を進めてきました。健康づくりは、各地域での無料の健康チェック(年間約80回、参加延べ約1,600人)や健康教室、健康ウォーク、健康体操など、県内生協との連携も図りながら「地域まるごと健康づくり」の活動を進めています。また、まちづくりでは、地域の助け合い活動として「地域の困った」の声に応えながら有償ボランティアさんとともに、ひとり暮らし高齢者さんのゴミ出しや草むしり、買物支援など、「生活を支え寄り添うまちづくり」に取り組んでいます。

2019年末からは、新型コロナウイルスの感染が全世界に広がりました。コロナ禍で多くの人が職を失い、各地で医療崩壊を招いたほか、低所得者や子どもの貧困が全国的に拡大しました。まだ詳細不明な感染症発生の中、事業所では、地域の医療を守るために果敢にコロナ対応に取り組んできました。また自治体、他団体との連携のもと食料の無料配布や子ども食堂など、地域のいのちと生活を守り支える活動も取り組んでいます。「いのちは平等」を掲げ、無料または低額で医療が受けられる無料低額診療を6事業所で実施し、入院時の差額ベッド料は徴収せず、誰もが安心して医療・介護が受けられるよう医療介護活動を進めています。

今後も物価高騰や国際紛争、気候変動による自然災害など不安定な情勢が予測される中、引き続き組合員の参加と協同のもと、子どもからお年寄りまで誰もが健康で居心地よく暮らせるよう、多様な参加と協同を広げて「でかける・つながる・安心を結ぶ」の健康づくり・まちづくりの活動を進めていきます。そして、この間、福井県医療生活協同組合が取り組んできたSDGsでも掲げられている貧困、飢餓、保健、平等、平和などの目標について、引き続き取り組みをすすめ持続可能な社会づくりに貢献していきます。



▲健康教室「笑いヨガ」



▲「子どものお口の健康教室」



▲助け合いによる生活支援



▲食料の無料配布の様子

所在地 福井市光陽2-18-15
電話番号 0776-27-2318
<https://www.fukui-iryouseikyoku.jp/>



福井県民生活協同組合

「福井の「あったらいいな」をカタチに。

共に創る、笑顔あふれる未来」



設立からの歩み

設立年月日: 1971年 福井労済生協物資部として共同購入スタート
1977年9月16日 福井県民生活協同組合創立総会
1978年4月27日 福井県より正式に認可を受ける

高度経済成長を経て、消費者の安全・安心な商品への関心が高まる中、「自分たちの手で、より良い商品を」という願いを持った消費者が集まり、福井県民生活協同組合が誕生しました。設立当初より、安全な食材の共同購入を通じて食卓の安心を支えてきました。宅配事業を基盤に1990年代は共済事業、店舗事業、2000年代は高齢者介護事業、子育て支援事業など、時代の変化と組合員のくらしのニーズに合わせた事業ネットワークを展開し地域住民の生活を支えてきました。2010年代以降は、県内の過疎地域における移動販売車の運行やお買物バス、食事宅配、ハーツのネットスーパーおつかいさんなどを通じて、買物困難者の支援にも力を入れています。時代の変化とともに、組合員の想いに応えるために安全・安心をベースに組合員の参加参画のもと様々な事業を展開してきました。これからも「組合員の幸せと地域社会のために」歩み続けます。



▲2024年9月 11号店ハーツ恐竜 オープン

現在の概要

福井県民生活協同組合	組 合 員 数	173,148人
理 事 長 檜原 弘樹	出 資 金	10,103,668千円
創立年月日 1977年9月16日	総 事 業 高	27,544,879千円

【主な事業内容】

- コープの宅配事業(配送センター:5) ●店舗事業(ハーツ:11、コンビニハーツ:1)
- 共済事業(CO・OP共済、火災共済など)
- 福祉事業(高齢者向け介護事業所きらめき:15、子育て支援ハーツきつず:10)
- くらしのサポート事業(移動店舗ハーツ便:20台、食事宅配、ハーツのネットスーパーおつかいさん、お買物バスなど)
- 再生可能エネルギー事業(水力発電)

【理念】「組合員の幸せと地域社会のために」 【使命】「食の安全とくらしの安心で組合員へのお役立ち」



▲CO・OPの宅配 配送トラック



▲高齢者向け介護事業所「きらめき」



▲子育て支援ハーツきつず

事業内容の特色

安全・安心の商品の取り扱いを基本として、地元の豊かな食材を活かした商品の品揃えやコープ商品を中心にコープの宅配と店舗ハーツで商品供給事業に取り組んでいます。さらに少子高齢社会の中でハーツのネットスーパーおつかいさんやお買物バス、移動店舗ハーツ便、食事宅配などくらしのサポート事業を展開。更に子育て世代へのサポートとして子育て支援施設ハーツきつずと介護保険事業を展開する介護施設のきらめき、そして共済事業など複数の事業ネットワークを通して、組合員一人ひとりのくらしに寄り添い、生涯にわたり切れ目のないサービスを通じて豊かな暮らしを応援します。



▲移動店舗「ハーツ便」



▲「ハーツのネットスーパーおつかいさん」



▲食事宅配 弁当配送

地域との連携

福井県内の複数の自治体と包括連携協定を締結し、高齢者支援や防災対策、地産地消の推進など、幅広い分野で協力体制を築いています。また、地元の新聞社や防災士会、弁護士会、行政書士会などと協力し、ラストワンマイルでの生活支援や防災減災の取り組み、くらしの相談など地域社会の課題解決に向けて連携を進めています。

SDGsへの貢献

持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向け、積極的に取り組んでいます。フェアトレード認証を受けた商品の販売を通じて、開発途上国の生産者の生活向上を支援するなどエシカル消費を推進しています。店舗や事業所における省エネルギー活動を推進するとともに、水力発電事業など再生可能エネルギー事業で温暖化防止に積極的に取り組んでいます。また格差社会が広がる中、「誰一人取り残さない」社会の実現をめざして、食品ロス削減と地域福祉へのお役立ちに取り組むためフードバンク・フードドライブ活動、子ども食堂支援に取り組んでいます。

事業と活動、地域とのネットワークを通じて、組合員や地域社会との長期的な信頼関係を構築し、お役立ちをめざしてまいります。持続可能な地域社会（SDGs）の実現に向け、組合員、地域住民、関係機関との連携を深め、共に未来を創っていくことをめざします。

- デジタル技術を活用した新たな購買サービスの提供（オンライン注文、アプリ連携など）
- 地域産品を活用した魅力的な商品開発と販路拡大
- 高齢化が進む地域における生活支援サービスの拡充
- 環境負荷低減に向けた取り組みの強化（再生可能エネルギー促進など）



▲2025年6月2日に運転を開始した「COOP黒河川水力発電所」（小水力発電事業）



▲フードドライブ活動

所在地 福井市開発5-1603
電話番号 0776-52-3300

<https://www.fukui.coop/>



生協(消費生活協同組合)とは

生協は「生活協同組合」の略で、消費生活協同組合法(生協法)に基づく組織で、組合員の生活を守り、より良くしていくために、消費者一人ひとりが出資金を出し合い組合員となり、協同で運営・利用する消費者の組織で「協同組合」の一つです。

全国各地にさまざまな生協がありますが、それぞれが独立した法人として運営されています。地域を活動の場として購買事業などを行う地域生協や県庁や学校の職員のための職域生協、大学の学生や教職員のための大学生協、医療事業を行う医療生協、共済を扱う労済生協などがあります。

現在全国で543生協、組合員数3,080万人、総事業高3兆8千億円となっています。(2024年現在)



生協の発祥の地はイギリスのロッチデール

協同組合の歴史は18世紀のイギリスにさかのぼります。世界に先駆けて産業革命が起こり、生産能力が飛躍的に増大しましたが、工場で働く人々は低い賃金と長時間労働を強いられ、失業の不安にさらされていました。これらを救う方法として「協同の理念」が提唱され、1844年イギリスの工業都市ロッチデールの労働者28人が出資金を出し合い「ロッチデール公正開拓者組合」が設立されました。最初は小麦・バターなどわずか4品目でしたが、「ロッチデール原則(現金主義・純正な食品・正しい量・適正な価格・剰余金の分配・教育の重視・宗教的政治的自由)」が後の協同組合原則となりました。



▲ロッチデール組合の最初の店舗・事務所

日本の生協の父は「賀川豊彦」(1888年~1960年)

イギリスの生協に学び、日本にも生協をと「神戸消費組合」(現在のコープこうべ)を設立し、戦後日本生協連の初代会長にも就任しました。クリスチャンとして神戸スラム街での伝道活動、労働組合運動、農民運動を経て生活協同組合運動の指導者になりました。貧しい人々や労働者が生活者として幸せに生きられるよう、相互扶助を目指しました。



日本生協連(日本生活協同組合連合会)とは



1951年3月に設立された各地の生協や生協連合会が加入する全国連合会です。

コープ商品の開発と会員生協への供給(販売)、会員生協の事業や活動のサポートなどを通して、会員生協の発展を支える役割を果たしています。また、全国の生協の中央会的役割として、さまざまな団体と交流し、生協への理解を広げ、社会制度の充実に向けた政策提言なども行っています。

日本生協連と会員生協は、本部-支部という関係ではありません。

協同組合とは

人と人の結びつきによる組織です。協同組合にはさまざまな種類があります。

生活協同組合をはじめ、農業協同組合や漁業協同組合、森林組合、労働者協同組合（ワーカーズコープ）などが日本の代表的な協同組合です。

日本の協同組合の連携組織 JCA



日本協同組合連携機構（JCA）は、2018年4月1日、日本の協同組合17組織が集い誕生した組織です。地域・都道府県・全国の各段階における異なる業界の協同組合間の連携を進めて協同組合の力を結集して、地域の課題の解消を目指しています。

世界の協同組合の国際組織 ICA

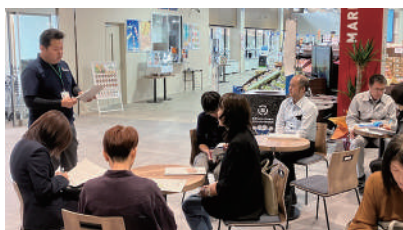


世界各国の協同組合が加盟する国際組織です。国際協同組合同盟（ICA=International Co-operative Alliance）には、104カ国から、約310の団体が会員として加盟しています（2025年1月現在）。ICAは、1895年に設立され、国連に登録された世界最大のNGO（非政府組織）です。日本生協連は1952年に加盟しました。

福井県協同組合連絡会



福井県においても、JA福井県中央会、JA福井県経済連、福井県漁業協同組合連合会、福井県森林組合連合会、福井県生活協同組合連合会、労働者協同組合「ワーカーズコープ・センター事業団」福井事務所の6団体で「福井県協同組合連絡会」を結成し、お互いの協同組合の視察研修を実施し相互理解を深めたり、各事業所周辺の清掃活動を行う「クリーンアップキャンペーン」や食品ロス削減と地域福祉を支援する「フードバンク・フードドライブ活動」など協同組合間連携事業に取り組んでいます。



▲視察研修（JAトレタス）



▲クリーンアップキャンペーン



▲フードバンク・フードドライブ活動連携

協同組合の使命

協同組合の定義

協同組合は、共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすために自発的に手を結んだ人々（組合員）の自治的な組織である。

協同組合の価値

協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、そして連帯の価値を基礎とする。それぞれの創設者の伝統を受け継ぎ、協同組合の組合員は、誠実、公開、社会的責任、そして他人への配慮という倫理的価値を信条とする。

協同組合の原則

- 【第1】 自発的で開かれた組合員制
- 【第2】 組合員による民主的管理
- 【第3】 組合員の経済的参加
- 【第4】 自治と自立
- 【第5】 教育、訓練および広報
- 【第6】 協同組合間協同
- 【第7】 コミュニティへの関与

協同組合がユネスコ無形文化遺産に登録

協同組合が単なる経済活動だけでなく、地域社会の課題解決や人々の暮らしを支える「文化」として、世界的にその価値が認められ、2016年に「協同組合の思想と実践」が「ユネスコ無形文化遺産」に登録されています。

2025年は国際協同組合年

テーマ：協同組合はよりよい世界を築きます

国連が2012年に続き2025年を「国際協同組合年」と宣言しました。これは協同組合の社会的貢献や持続可能な開発目標（SDGs）への貢献を広く伝え、協同組合の振興を促すための年として決定しました。協同組合が貧困の根絶、雇用の創出、社会とのつながりの強化に貢献するだけでなく、持続可能な開発にも貢献できる企業体・社会的事業体であると評価しています。そのため、協同組合の社会的役割やSDGsへの貢献に対する認知度を高め、協同組合の発展を支援し、振興する取り組みを各国政府や関係機関に要請しています。



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます

7月30日 生協の日

2021年3月に日本生協連が創立70周年を迎えたのを機に、消費生活協同組合法が公布された1948年7月30日に因み、一般社団法人日本記念日協会に、7月30日を「消費生活協同組合の日」（生協の日）として記念日申請を行い、登録されました。



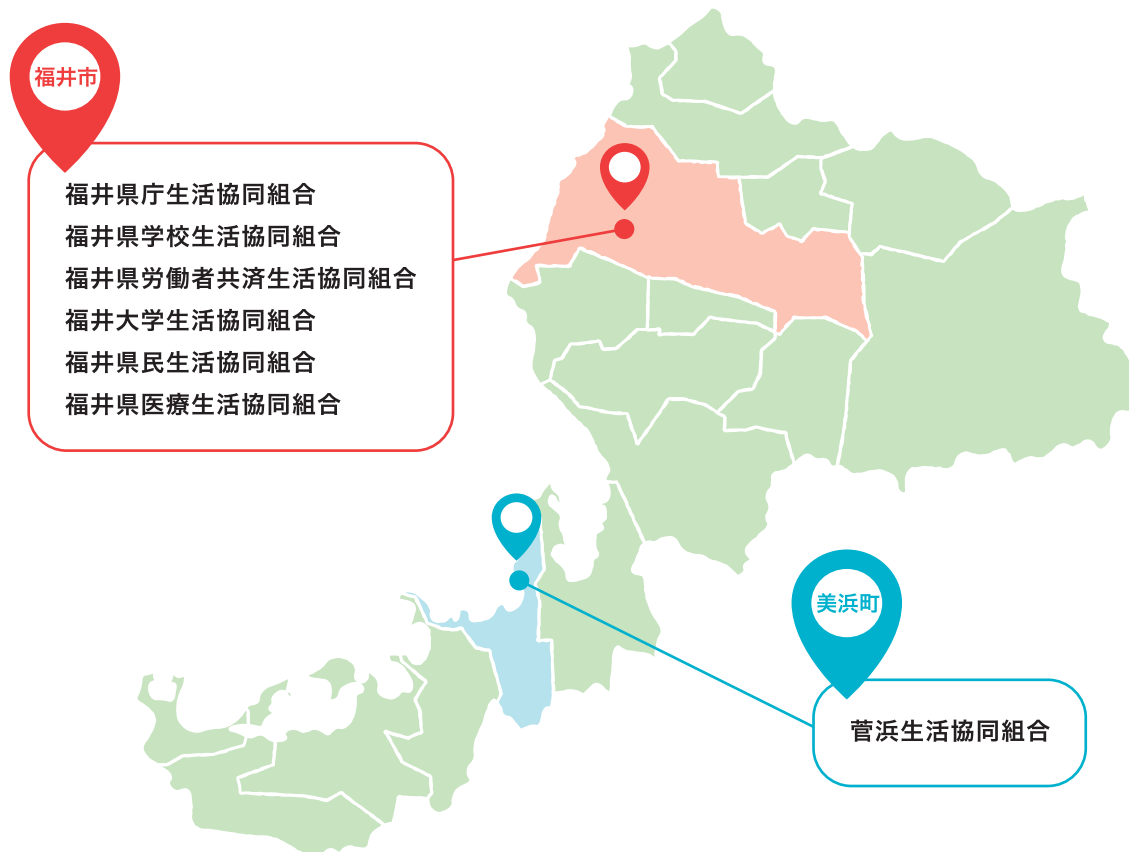
7月の第1土曜日 国際協同組合デー

協同組合運動の発展と普及を進める記念日

国際協同組合デーは、1922年に国際協同組合同盟（ICA）によって定められ、以来、世界各国でさまざまな祝典、講演会、音楽会などのイベントが行われています。

また、1995年のICA設立100周年に際し国連も同日を「協同組合国際デー」と認定しました。

会員生協の主たる事務所の所在地



福井県生活協同組合連合会

住所／〒910-8557

福井県福井市開発5丁目1603番地

TEL／0776-52-8815 FAX／0776-52-2050

✉／kenren@fukuicoop.or.jp

H P／<https://www.fukui.coop/kenren/>

発行／2025年10月